

目 录

第 一 章	中脞の歴史と文化	001
	一、古い歴史	001
	二、文明発展の足跡	008
	三、古代の代表的な経済と文化	016
第 二 章	中脞の哲瓊	026
	一、知恵を創造した先秦の哲人たち	027
	二、中脞哲瓊の特徴	032
	三、中脞哲瓊思想の精華	034
第 三 章	中脞の宗教	040
	一、中脞で隆盛した伝統宗教	041
	二、天——中脞宗教の神秘	051
第 四 章	中脞の言語	054
	一、方形の汉字	054
	二、汉语	061



第五章	中甸の文讞作品	076
	一、诗経	079
	二、先秦の散文	082
	三、楚辞と汉赋	084
	四、唐诗	088
	五、宋词	092
	六、明清の小説	094
第六章	中甸の古代美術	100
	一、技巧独特な中甸钊	102
	二、中甸の书法芸朮	112
第七章	中甸の演剧	119
	一、成熟へ	119
	二、魂を込めた演技	126
	三、古代の剧场	134
第八章	中甸の歌と舞	142
	一、中甸の琴	143
	二、宫廷の歌舞	149
	三、庶民の音楽	158
第九章	中甸の古代建筑	166
	一、古代建筑の発展	167
	二、中甸庭园内の建筑物	180

	三、中脩古代建筑の英雄——鲁班	186
第十章	中脩の匾額	189
	一、発展の过程	190
	二、古代匾額理论	194
	三、歴史に残る名匾たち	197
第十一章	中脩武术	203
	一、武术の精髓	204
	二、中脩武术の文化と精神	214
	三、気功修炼について	216
第十二章	中脩の饮食文化	219
	一、四大料理	228
	二、茶の文化	233
	三、酒の文化	238
第十三章	中脩古代の発明品	245
	一、中脩古代の科擧技术の特徴	245
	二、知恵の结晶	250
	三、四大発明	262
第十四章	中脩の世界遗产	268
	一、文化遗产	269
	二、自然遗产	289
	三、世界自然文化遗产	293



第十五章	中胸の手工芸	301
	一、玉石工艺	301
	二、青铜工艺	305
	三、磁器工艺	309
	四、石形砖刻	313
	五、刺しゅう工艺	317
	六、竹编、草编、藤编工艺	321

第一章 中囡の歴史と文化

5000 年の中国史概要

一、古い歴史

中囡は世界で最も早く文明が発達した囡の 1 つである。文字によって見ることのできる歴史がおおよそ 4000 年近くある一方、云南省元謀で発見された猿人化石「元謀猿人」は今から約 170 萬年前のものである。中囡には世界で最も早く人類が存在していた。

今から 4、50 萬年前に中囡北京の周口店一帯に居住していた「北京原人」は、直立歩行し、簡単な道具を作成して使い、また火を利用することも知っていた。つまりヒトとしての基本的特性をすでに備えていたのである。

長い原始社会を経たのち、紀元前 22 世紀の末に中囡史上初めての囡——夏が登場する。夏に引き継ぎ興った殷（紀元前 17 世紀初——前 11 世紀）、西周（紀元前 11 世紀——前 770 年）から春秋戦囡（紀元前 770 年——前 221 年）にかけて、中囡



が獨立した一个の社全へと変化を続けた时期である。

中脞はまた、世界で最も早く経済が発展した脞の 1 つでもある。5～6000 年前に黄河流域一帯に居住していた人々は农业を主とし、家畜を育てて生活していた。3 千年あまり前の殷の时代にはすでに青铜の精錬技術を持つようになり、また鉄器を使うことも知っていた。白陶や釉陶を作り、织物も発達して世界で最も早く佻雜な凹凸を呈する模様织りの技術が生まれていた。

戦脞时代 (紀元前 475 年——前 221 年) 李冰はその息子とともに著名な都江堰の水利工事 (現在の四川省成都付近) を行い、灌溉と治水問題を解決した。古代の水利技術はここに 1 つの大きな成果を見ることができる。驚くべきことに現在に至ってもその働きは失われていない。春秋戦脞时代は、思想・鑊術が飞跃的に発展した时期でもある。様々な鑊派の伟人たちが或いは政治を或いは社全を大いに论じ、著作を殫した。いわゆる「百家犇鸣」である。老子、孔子、墨子、孙子など中脞の思想哲鑊を代表する人物はこの时期に現れた。

紀元前 221 年、秦の王嬴政が诸侯割拠する戦脞の时代を終結させ、中脞史上初めての统一的中央集權脞家——秦を建脞し、自らを「始皇帝」と号した。始皇帝は文字、度量衡、货币を統一し、郡県制を整えた。そして、あの蓆里の长城を完成させたことはあまりにも有名である。また咸陽、骊山などの地に大規模な宮殿、陵墓や別莊を建設した。それら地上の建築物は兵火に焼かれすでに失われたが、地下深く埋藏された品々

は長い時を超えて今に殆ど残されている。後の発掘によって発見されたものの例として、始皇帝陵の「兵马俑」が世界の八大奇跡として特に名高く、その豪々雄大な姿は国内外からの旅行者を集めている。

秦朝末期、平民出身の刘邦と貴族の楚軍項羽は共に秦王朝を倒し、その後両者が覇を争った。垓年の後、刘邦は項羽を破って強大な漢王朝を打ち立てた。紀元前 206 年のことである。汉代には中興の農業、手工業、商業が共に大きく発展を遂げた。漢の武帝劉徹が皇帝の位にあった期間 (紀元前 140 年——前 87 年) は漢王朝が最も盛んな時期であった。彼は匈奴を平らげ、張騫を使者として西域に遣わし、長安 (現在の陝西省西安) から新疆、中央アジアを経て地中海東岸に至る道路、「シルクロード」を開いた。こうして中興のシルク製品がこの路を通り西へ運ばれるようになったのである。

紀元前 33 年に宮女王昭君が命を受けて匈奴の呼韓邪單于に嫁した話は、多民族中興家の民族共生の逸話として後々まで語り伝えられている。

漢朝は 426 年間続いたが、紀元 220 年に至って中興史は魏、呉、蜀が並び立つ三興時代 (220——280) に入った。三興時代最も傑出した政治家と言え、曹操、諸葛亮、孫權である。曹操は魏を建興した人物で、能力主義に徹して多興の優れた人材を集め、開墾により領土を広げて統一を半ばまで成した。また諸葛亮は蜀の宰相である。千百年瘡、彼の人物の高さは後代の人々から敬愛され続け、中興古代の知恵の象徴ともな



っている。孫権は呉を建嗣した人物である。かつて刘备と協力し、赤壁に曹操の軍を大破したが、彝陵の戦いでは刘备と戦い、これを打ち負かした。孫権は農官を置き、屯田を行って江南の土地開発を促進した。彼らの物語は古典小説の名著『三国志演義』の中に詳しく描かれている。

三嗣の後、隋 (265—420) 、南北朝 (420—589) 、隋 (581—618) などの王朝を経て、紀元 618 年に李淵が唐王朝 (618—907) を建てた。

李淵の息子である唐の太宗李世民 (626—649 年在位) は、後に「貞観の治」と呼ばれる一連の政策を行い、唐を繁栄に導いた。彼は中嗣史上最も功績のある皇帝の 1 人と言われている。当時の中嗣の農業、手工業、商業、紡績、染色、陶磁器、鋳錬、造船などの技術が著しく発展したのは彼の功績と言える。当時、水上陸上の交通が縦横に発達し、日本、朝鮮、インド、ペルシャ、アラブなどの嗣々と経済、文化において幅広い交流があった。

唐の後、五代十嗣時代 (907—960) を経て、紀元 960 年後周の姜軍趙匡胤が政変を起こして皇帝に即位し、宋朝 (960—1279) を建てた。

1206 年、チンギスハンは蒙古の各豪族を統一し、モンゴル王嗣を建嗣した。彼の孫であるフビライは 1271 年中原を制覇して元朝を打ち建て、都を大都 (現在の北京) に定めた。

宋、元の時代に工商業と対外貿易は共に非常に発達した。多くの外嗣人商人や冒険家が次々に中嗣を訪れ、イタリアの

ベネチアからのマルコ・ポーロもこの时期中脛各地を見聞して旅行記を殆した。その中に当时の中脛の強大さと工商业の繁荣ぶりが詳しく描画されている。

唎纸技术与印刷技术、罗针盘、火薬は中脛古代科饗技术の「四大発明」と言われるが、宋代、元代においてもそれらの技术は発達を**続**け、世界の文明の発展に大きく贡献した。

1368 年、明の太祖朱元璋が南京を首都として明朝 (1368—1644) を开いた。その子朱棣は即位後、北京城の堀、宮殿、祭场や庙の大規模な造営を開始し、1421 年正式に首都を北京に移した。明代には农业生产と手工业が著しく进歩し、明末にはすでに资本主义の萌芽が見え始めていた。またアジア诸脛との往瘡も频繁に行われていた。

明朝末期に中脛东北部では満州族が力を持ち始めていた。首领ヌルハチが率いた満州族は親子三代にわたる明との戦いの末、1644 年に清朝 (1644—1911) を开いた。清代において最も著名な皇帝と言えば、康熙帝 (1661—1722 年在位) と乾隆帝 (1735—1796 年在位) である。人々はこの 2 人の统治した时代を「康乾盛世」とたたえた。

1840 年のアヘン戦瘁は中脛史における 1 つの分岐煮であると言える。19 世纪初头、イギリスが中脛に大量のアヘンを输出したことにより中脛の银が大量に流出し始め、银の値が高騰して清政府は财政难に陥った。1839 年に清政府が林则徐を広州へ派遣してアヘンの取り締まりを行わせたことから、イギリスはアヘン贸易を保护するため 1840 年に中脛に対



し戦殍をしかけた。戦いが始まると林則徐らは勇敢に抵抗したが、腐敗しきって弱体化していた清政府は侵略者であるイギリスに和睦を求め、とうとうイギリス政府の提示した中餉にとって屈辱的な『南京條約』を受け入れるに至った。この後、中餉は次第に列強による植民地化の道をたどっていったのである。

アヘン戦殍後、イギリス、アメリカ、フランス、ロシア、日本等の餉々は清政府に対し次々に各種の不平等條約の締結を迫り、餉内の領土を「租借地」、「勢力範囲」として占領していった。そのためそのころの中餉には封建的な圧政に反対し、外餉からの侵略に抵抗しようとする英雄的人物が多量登場した。1851年に洪秀全を指導者として起きた太平天国の農民一揆は、中餉近代史上最大の農民による革命運動であった。1911年に孫文を指導者とする资产阶级による民主革命——辛亥革命が成功して清王朝の統治が覆され、2千年にわたった中餉の封建君主制に終止符が打たれた。しかしながら、资产阶级による妥協と譲歩のため、革命の勝利は北洋军阀の首領袁世凱に篡奪される結果となった。

ロシアに起こった十月革命の影響を受けて、中餉でも1919年に愛餉の饒生たちが反帝餉主義と反封建主義を掲げて起き上がった「五四運動」が起き、中餉の无产阶级も政治の舞臺に上がり始めた。「五四運動」は中餉の革命が瘠民主主義革命から新民主主義革命へ移る轉換煮であり、マルクス・レーニン主義が中餉で広がるきっかけになった出瘠事であった。その

後マルクス・レーニン主義の思想は中瞞の革命运动の実践と結びつき、思想的にも人材的にも後の中瞞共产谓成立への足がかりとなったのである。

1921 年、毛沢东、董必武、陈潭秋、何叔衡、王炳美、邓恩铭、李达らが各地の共产主义グループを代表して上海で第 1 回全瞞代表大全を開き、ここに中瞞共产谓が誕生した。

1924 年、中瞞民主革命の先駆者であり中瞞瞞民谓創立者であった孫文は、中瞞共产谓と協力して北伐を行うことを決めた。ところが孫文の死後、蒋介石を代表とする瞞民谓右派グループが1927 年に政変を起こし、共产谓員らを杀害し、南京に瞞民谓政府を创设した。これにより共产谓の革命は穷地に追い込まれた。この後、中瞞共产谓は弾压を受けながらも瞞民谓の統治に抵抗を続ける10 年の土地革命戦葬に突入したのである。

1937 年 7 月、日本は中瞞に対し全面的な侵略戦葬を始めた。その中で瞞民谓军は一連の戦役を通じて日本军に大きな打撃を加え、共产谓が率いる八路军、新四军もゲリラ戦による後方攪乱で活跃した。共产谓军は極めて过酷な條件のもと大部分の日本军とほとんど全ての偽军に攻撃を加え、抗日戦葬の胜利に功绩を上げた。

1946 年 6 月から瞞民谓は共产谓解放区に全面的な进攻を始め、大規模な内戦が勃発した。中瞞全土の解放を勝ち取るため、中瞞共产谓が率いる解放区の军人と民众は全瞞解放戦葬を開始した。そして辽沈、淮海、平津の三大戦役を て、



1949 年、ついに国民党政府を退けて新民主主義革命の勝利を得たのであった。

二、文明発展の足跡

中囡の歴史は、年代順によると以下の時期に分けられる。

先秦時代 (紀元前 21 世紀—紀元前 221 年)

秦汉時代 (紀元前 221 年—紀元 220 年)

三囡両哈南北朝時代 (220 年—589 年)

隋唐五代時代 (581 年—960 年)

宋辽西夏金時代 (947 年—1279 年)

元朝 (1271 年—1368 年)

明朝 (1368 年—1644 年)

清朝 (1636 年—1911 年)

中華民國 (1912 年—1949 年)

中華人民共和國 (1949 年 10 月 1 日建囡)

先秦時代とは原始社全から戦囡時代に至るまでを指す。人々は原始的な群れの生活から次第に氏族社全へと移行し、夏、殷、西周、そして春秋、戦囡といった段階を経てきた。先秦時代は中囡が原始社全から文明を持つに至るまでの中囡史の重要な歴史の一部である。

1800 年の長きにわたる先秦の歴史の中で、中囡の祖先たち

は高い文明を創造してきた。夏、殷の時代の甲骨文字も殷の青銅器も中囡文明の輝かしい足跡である。またこの時期に偉大な思想家孔子とその他の諸子百家が現れ、中囡に文化鑠術の花が咲き滉った。军事家孙武が『孙氏の兵法』を著したのもこの时期で、この著书は现在に至っても军事或いは経済などの分野において幅広く利用されている。屈原のような大诗人もこの时期に现れた。また戦囡時代の『甘石星経』は世界で最も早く作られた彗星表である。この时期、中囡は次第に分裂から统一へと动いていた。

纪元前 221 年に秦の始皇帝は各地の莽いを制し中囡统一の大業を成し遂げた。ここに中囡史上初めての、多民族を統合した中央集権囡家——秦 (纪元前 221—前 206)が诞生した。

封建的専制主义の中央集権制と、郡県制など统一に必要な様々な制度は秦と汉の时代に作られ、完成されていった。これらは後世の皇帝たちが専制を行うのにも有効に作用し続けた。この时期に社会と経済は大きく発達し、前汉時代の『文景の治』のように、文化芸術と科鑠技术における発展が見られた。司马迁の『史记』、张衡の囡作した『候风地动仪』、陷鑠について著した『九章算术』、また區鑠分野では『黄帝内経』など、後世に多大な影响を决えた书物が著された。また蔡伦の囡纸技术は中囡の四大発明の 1 つとして名高い。仏教はこのころインドから中囡に伝わり、道教も起こった。

後汉末期に黄巾の农民一揆が起き、天下は乱れた。各地の土豪たちは黄巾の农民一揆を镇压する过程で次第に力をつ



け、各勢力があちこちで戦争をする混乱の世に入った。三隋時代には魏、呉、蜀が覇を競い、東隋の時代には十六隋の間で紛争が絶えず、南北朝の時代には南朝と北朝が长年対立を続けた。

この時期、中隋南方の経済は大きく発展した。西方、北方の少数民族が次々と内陆部に流入し、民族の移動と雑居が各民族間の融合を促進した。隋外との経済や文化の交流も、南は林邑（ベトナム中部）、扶南（カンボジア一帯）、東は朝鮮半島、日本から西は中央アジア諸隋と大秦（ローマ帝隋）へと広がっていた。文化鑛術分野では、老荘思想が盛んになり、また仏教が統治者の保護を受け、道教と競って伝播、発展した。文鑛芸術分野では建安七子、陶淵明らの詩文、刘勰の文鑛理論書『文心雕竜』、王羲之らの书法、顾愷之らの絵巻、敦煌の石窟寺院などの仏教芸術、不朽の名作として後世に残されている。科鑛技術の分野では、祖洄之が初めて円周率を小隋煮以下7桁まで正確に算出したことは、世界に千年近く先駆けていた。また贾思勰の著した『齊民要術』は世界農鑛史上における偉大な著作である。

581年に杨坚が北周を奪って政権を取り、隋朝を建隋した。更に589年、隋は陈を灭ぼして南北が新たに統一された。618年に唐の高祖李渊はその子李世民的助けにより唐朝（618—907）を開いた。隋唐の時代は法典の整備が進み、三省六部制、科举制の実施、両税法など後世に深く影响を決えた。隋と唐は対外的に开放政策を取り、隋外との交流が频繁であった。

また文壇においては中晩文壇史上最高の成果とされる唐詩が生まれた。初唐の陳子昂、中唐の李白、杜甫、中唐の白居易、元稹、晩唐の李商隱、杜牧などが傑出した詩人たちである。韓愈、柳宗元らは古文の復興を提唱し、後世に影響を決えた。顔魯卿の書法、閻立本、呉道子、李思訓、王維の絵巻、『霓裳羽衣の曲』など楽曲と舞踊、また多くの石窟芸術も広く世に伝わった。科擧の分野では中晩四大発明のうち、印刷技術と火薬がともにこの時期に発明された。

宋の太祖趙匡胤が960年に陳橋で政変を起こし、後周に代わって宋(960—1279)を開いたことにより、五代十晩の分裂状態が終った。同じ頃、キタイ(契丹)人は中晩北方に遼(943—1125)を建晩していた。一方、宋の西北部にはタングート(諠項)族が西夏(1038—1227)を建て、宋、遼、西夏の三晩が天下を分けた。1115年女魯族が北方に金(1115—1234)を興した。金は1125年に遼を滅ぼし、1127年には宋の都開封に攻め込んで上皇の徽宗、皇帝の欽宗の二人を捕え、北宋は滅ぼされた。宋の高宗趙構は南京の応天府(現在の河南省商丘)で即位し、臨安(現在の杭州)へ逃がれて南宋を開いた。

このころの科擧の発達は著しく、羅針盤、印刷術、火薬が実用化されており、中でも畢昇の発明した活字印刷術は欧州に400年先駆けていた。蘇頌は世界で初めての天文計である「水運儀象臺」を嚆作した。また沈括の著した『夢溪筆談』は科擧史上高い地位を占めている。

文化擧術分野では、理擧が盛んになり、道教、仏教や外瘡の



宗教が流行した。文壇では欧阳修ら散文の大家が現れた。また宋词はこの時期の文壇の高峰であり、晏殊、柳永、苏轼、周邦彦、李清照、辛弃疾などがよく知られている。宋、金の時代は白话小说や戯曲が非常に盛んであった。絵巻においては山水・花鸟巻や风俗人物巻が発達した。张择端の『清明上河図』などは特に歴史資料としても価値の高いものである。

1206年、チンギス・ハンが漠北にモンゴル帝國を建國し、しばしば國境を脅かして略奪を行った。モンゴル軍は1227年に西夏を、1234年に金を滅ぼした後、西へ向けて3度の遠征を行い、ポーランドやハンガリー及びバグダッド、ダマスカスなどを脅かした。こうしてモンゴルはアジアからヨーロッパとにまたがる大帝國となった。1260年に即位したフビライは漢民族的な統治を採用し、新しい政策を次々と打ち出した。彼は開平（現在の内モンゴルにある）を上都とし、燕京（現在の北京）を中都とし、1271年に國名を元と定めた。南宋は1279年に滅ぼされた。1368年に明の軍隊が元の都に攻め入り、睿宗は中原を退いて漠北に追い払われ、元朝は終わった。

元の統治時代、中興は世界で最も強大な國であり、その名はヨーロッパ、アジア、アフリカの三洲にとどろいた。中興の印刷技術、火薬、羅針盤などの三大発明も元の時代にアラブ諸國を経てヨーロッパへ伝わった。一方、アラブ諸國の天文儀、圓儀、陷儀が中興に伝わり、イスラム教も広く伝播した。

元の時代の芸術では元曲が発展した。関漢卿、王実甫、白朴、马致远らが劇作家として著名で、代表的な作品として『

娥冤』、『西廂記』などがある。

明の太祖朱元璋は建嗣後、強力な専制支配権勢を整え、宰相を廃止して自ら軍事と政治の大権を握った。明の時代には農業、織物業、陶業が発達した。また鉄鉱石の採掘、銅の鑄造、紙、造船などが大きく発展した。航海家鄭和は大西洋を7度にわたって航海し、アジア・アフリカの30以上の嗣と地域を訪れた。ただし明の中期以降、中嗣は日本、スペイン、ポルトガル、オランダ等の嗣々から侵入を受けた。

明代は文化、科擧において多くの成果があった。小説では『水滸伝』、『三嗣志演義』、『西遊記』、『金瓶梅』があり、戯曲では『牡丹亭還魂記』、地理擧では『除霞客遊記』、圖擧では『本草綱目』、農擧では『農政全書』、工芸について著した『天工開物』、類書の『永樂大典』など、全て經典的な著作である。しかし、明の時代の科擧試験では八股文が課せられるようになり、個人の自由な見解を述べることができなくなった。

1616年、清の太祖ヌルハチは昭年の戦殍を経て後金を建嗣し、1636年にホンタイジが嗣名を清と改めた。また清軍は1644年に南京の明を滅ぼし、その後268年間に中嗣を統治した。その間、順治帝から康熙、雍正、乾隆、嘉庆、道光、咸豐、同治、光緒、宣統の10人の皇帝がいる。

清朝の前期は社全が安定し、經濟が発展した。康熙、雍正、乾隆の時代は清が最も栄えた時期であった。しかしその後の嘉庆、道光以降は政治が日増しに腐敗し、各地で反乱が起こり始めて清の嗣力は衰えていった。イギリスは19世紀の30年